

各教科等における 「令和6年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、1人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿を実現します。

また、多様で複雑な現代の社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要となります。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等においてその育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



中学校の各教科等の重点

目指す子供の姿

- 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使うことができる。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する活動において、目的や意図に応じて、必要な情報を選び、他者と伝え合うことを通して、自分の思いや考えを明確にしたり、深めたりして、表現することができる。
- 課題解決に向けて活動に粘り強く取り組むなかで、言葉を通じて人と関わり、言葉がもつよさを認識しようとしたり、言葉をよりよく使おうとしたりしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①育成を目指す資質・能力を明確にし、実施状況を評価して改善を図りながら、生徒一人一人に最適な学びを重ねていく場の設定
 - ◇振り返りやアンケート、学力調査等を活用して生徒一人一人のつまづきを捉え、螺旋的・反復的に繰り返しながら、資質・能力の定着を図る。
 - ◇教科等横断的な学習の充実を図るとともに、他教科等の取組の成果を国語科の取組に生かす。
- ②「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を関連させ、言語活動を通して資質・能力を育成する単元の構想と展開
 - ◇目標と言語活動の設定の工夫、学習の手引きや多様なモデルの提示等を通し、他者と協働して、生徒が言葉による見方・考え方を働かせながら、主体的に学習を進める過程を設定する。
 - ◇語彙の量と質の充実を図るために、読書活動の推進や実生活に関連した言語活動を取り入れるなどして、語句を蓄積することや蓄積した語句を意図的に使わせることに、継続的に取り組む。
 - ◇情報を取り出して整理し、その関係を捉えることで、話や文章を正確に理解したり、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることで、適切に表現したりする学習活動を設定する。
 - ◇前学年や小学校での既習事項を活用する場面を設定する。
- ③身に付けた資質・能力や学習内容をＩＣＴ活用等により自覚化を図る指導の充実
 - ◇多様な学習の記録（ノート、成果物、映像等電子データ）が生まれるように工夫をする。
 - ◇「書くこと」を通して振り返りをさせるとともに、ＩＣＴの利用等により共有して学びを深めさせる。